

主催者挨拶

吉村 洋文
大阪港開港150年記念事業推進委員会委員長
大阪市長



大阪港は、1868年7月15日に西区川口の地において開港いたしました。150年目にあたる節目の年を、大阪港関係者はもとより、国・府・市、関西の経済発展を支える民間企業、領事館、大阪港の姉妹港・友好港、発展著しいアジア諸港の皆さん方と共に祝いできることは大きな喜びです。大阪港は、多くの市民や国、そして経済界の大きなご理解とご支援のもと、戦災による壊滅的被害や台風・高潮に代表される自然災害など幾多の困難を乗り越え、発展してまいりました。近年では、神戸港とともに連携し、「阪神港」として国際コンテナ戦略港湾施策を推進することで、関西圏の産業活性化に大きく貢献するとともに、より豊かで安定した市民生活を支える港づくりに取り組んでいます。さらに、大阪ベイエリアの活用は、関西圏の経済活性化を図るために大変重要であり、特に夢洲では、関西全域における新たな観光や産業のイノベーションが期待でき、非常に大きな経済効果が見込まれる事業として、大阪府と一緒にとなって統合型リゾートを含む国際観光拠点の形成をめざすとともに、国や府、経済界と一緒に、2025年万国博覧会の実現に鋭意取り組んでいるところであります。

来賓挨拶

石井 啓一
国土交通大臣



昨今、我が国の港湾を取り巻く情勢は、世界の大手海運企業の再編やアジアのハブ港間での競争激化等ダイナミックな変化を見せてています。このため、国土交通省では、阪神港及び京浜港において「国際コンテナ戦略港湾政策」を展開しているところです。大阪港では、本年2月に夢洲コンテナターミナルの岸壁部分の工事が完了し、連続1,350mの西日本最長の大水深岸壁を形成するなど、国際コンテナ戦略港湾の競争力強化を着実に進めています。また、新たな取組として、農水産品の輸出促進を図るため、「阪神国際港湾株式会社」が中心となり、海上冷凍混載輸送サービスを提供する物流事業者の認定などを行っており、今後、食の輸出の増加についても期待しているところです。近年、我が国のクルーズ船の寄港回数が大幅に増加し、大阪港には、今年は昨年の倍増となる55隻の寄港が見込まれており、来年にはクイーン・エリザベス号が大阪港を起点に日本発着クルーズを行う予定となっています。国土交通省としても、2020年500万人を目標とするクルーズ需要に対応し、インバウンドを我が国の経済の発展に取り込むことができるよう、受入環境の改善に努めまいります。

来賓挨拶

溝江 輝美
大阪港運協会会长



大阪港運協会は昭和33年に設立され、今年で60年目を迎えます。会員、各企業も長きにわたり、大阪港で物流事業を営んできましたが、この間、荷役の機械化、特にコンテナ化の進展に伴い、港湾荷役の形態も大きく変わってきました。また、船会社等のニーズに対応するため、港湾管理者などとも連携して施設整備や設備更新に取り組むとともに、円滑な港湾荷役を支える人材の育成や技能の継承を図り、港湾労働環境の改善、福祉の向上にも努めながら、安定的に効率的な物流サービスの提供を行ってきました。平成22年に大阪港は神戸港とともに国際コンテナ戦略港湾に選定され、現在、国際競争力の強化に取り組んでいるところでです。今後、少子高齢化の進展やIoT、人工知能の活用など、社会経済状況の大きな変化が想定され、港湾物流を取り巻く環境にも大きな影響が出てくるものと考えています。そういった中で大阪港の関係者が一丸となって、情勢の変化に柔軟に対応し、大阪港の港勢を伸ばしていくことが大切です。大阪港運協会としましても、多様化する物流のニーズに的確に対応し、大阪、関西の経済産業を力強く支えることのできる大阪港となるよう努力してまいります。

来賓挨拶

尾崎 裕
大阪商工会議所会頭



幕末の1868年、大阪港が近代港湾として海外に門戸を開いたこの年に大阪に赴任してきた人物が、大阪商工会議所の大先輩、近代大阪の父と言われる、五代友厚です。五代は大阪税関川口運上所の初代長官を務めた他、大阪商船を開業するなど、大阪港の発展にも大きな足跡を残しました。それ以降、本格的な築港工事、港湾施設の整備が進み、人口2,000万人を超える関西経済圏を後背地に持つ大阪港は、人、物の交流を支える一大拠点として発展を続けると同時に、域内の経済成長にも大きく貢献してまいりました。また、我が国屈指の貿易港として、世界約150の国と地域、約600の港を結んでおり、中でもアジア各国の港とは密接な海上輸送ネットワークを有しています。そして、今、産業構造の変化や経済のグローバル化に対応して、新たな時代に求められる機能を備えた大阪港へと進化を続けています。大阪湾の中心にある夢洲で2025年の国際博覧会開催に向けた誘致活動を大阪商工会議所は、大阪府、大阪市、そして日本政府と一緒にになって取り組んでおります。ぜひ、これを実現して、大阪、関西から、日本の魅力を世界に発信する万博を実現したいと考えております。

来賓祝辞

松井 一郎
大阪府知事



大阪港は開港以来、戦災や幾多の困難を乗り越え、近畿圏の経済・産業活動を支える日本屈指の港湾として発展してきました。これらの大阪港の興隆は、ひとえに先人の方々の努力の賜物であり、これに深く敬意を表すとともに、大阪府としても大阪市と連携して、大阪港のさらなる発展に取り組んでいきます。

ウィリー・アダムス
サンフランシスコ港湾
委員会代表



サンフランシスコ港と大阪港の両港にとって、今回の式典は、姉妹港提携50周年を記念するものでもあります。大阪港が開港150年という節目の年を迎へ、このような記念式典が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

大阪港開港150年記念港湾功労者顕彰

(敬称略・順不同)

大阪港の復興と発展に貢献された方々



中井 光次 (なかい みつじ)
1892~1968年

戦災や天災により荒廃した大阪港の復興に尽力。大阪港振興協会を設立されるなど、大阪港発展の基礎を築かれた。



太田 丙子郎 (おおた へいしろう)
1876~1965年

多年にわたり戦後の大阪港の復興及び振興発展に尽力されるとともに、海難防止対策の推進に大きく貢献された。



田中 直方 (たなか なおかた)
1895~1960年

倉庫業をはじめ港湾運送事業の再興と災害で被害を受けた大阪港の復興に尽力。その後の発展に大きく貢献された。



松成 博茂 (まつなり ひろしげ)
1927~2015年

海運事業の推進に尽力されるとともに、専用コンテナ埠頭の運営を通じて、大阪港のコンテナ化の進展と振興発展に大きく貢献された。



張 榮發 (Chang Yung-Fa)
1927~2016年

世界的な海運会社を設立し、フルコンテナサービスを通じて、大阪港の港勢の伸長と発展に大きく貢献された。

港湾運送事業の近代化、大阪港の振興・発展に貢献された方々

海事思想の普及、大阪港の振興に貢献された方



太田 誠三郎 (おおた せいざぶろう)
1912~1981年

港湾運送事業の近代化に力を尽くされるとともに、港湾労働者の福祉の増進を図り、大阪港の振興発展に大きく貢献された。



中谷 巍 (なかたに いわお)
1911~1989年

大阪沿岸荷役協会などの要職を務め、港湾運送事業の振興に尽力され、広く港湾関連業界の発展と福祉の向上に大きく寄与された。



間口 良男 (まぐち よしお)
1920~2014年

技能労働力の養成を通じ、港湾運送事業の近代化に貢献。港湾労働者の福祉の増進と青少年の健全育成、海洋思想の普及に貢献された。



鴻池 十郎 (こうのじゅうろう)
1920~2004年

荷役の機械化など港湾運送事業の近代化、国際化に貢献されるとともに、港湾労働者の福利厚生の充実に大きく貢献された。



柳原 良平 (やなぎはら りょうへい)
1931~2015年

天保山や築港など、大阪港を題材に数多くの作品を残し、海事思想の普及と大阪港の振興に大きく貢献された。